



## 株主の皆様へ

株主の皆様には、日頃より格別のご支援とご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

第116期(2024年4月1日~2025年3月31日)における当社グループを取り巻く経営環境と事業活動の概況並びに今後の取り組みについてご報告させていただきます。



代表取締役社長

さくら だ たけ し  
櫻田 武志

### 当期の経済情勢

当連結会計年度におけるわが国経済は、堅調な企業業績を背景とした所得環境の改善やインバウンド需要の増加により、緩やかに回復基調で推移いたしました。一方で、政策金利の引き上げによる金利上昇や、実質賃金の伸び悩みによる個人消費の落ち込みから、依然として先行き不透明な状況が続いております。

### 当社グループの業績概況

当社グループの業績概況といたしましては、業績回復に向けて価格転嫁を推し進めてまいりましたが、売上拡大を目指して事業譲受した機能性材料部門の保護フィルム事業の立ち上げに向けた各種費用の先行が営業収益を圧迫し、赤字幅は縮小したものの営業赤字となりました。

経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益は、受取配当金や政策保有株式売却による投資有価証券売却益から黒字となりました。

その結果、当社グループの経営成績は、売上高294億30百万円(前年同期比6.9%増)、営業損失34百万円(前年同期は営業損失1億95百万円)、経常利益88百万円(前年同期比150.1%増)、親会社株主に帰属する当期純利益2億37百万円(前年同期比31.9%減)となりました。

### 今後の取り組みについて

軽包装部門につきましては、計画に沿って電子レンジ対応食品包材「レンジD o !」の商品ラインアップを拡充し、非食品分野の化粧品、日用品、医療及び医薬包材にも高い技術力を活かした



## サステナビリティへの取り組み

新製品の開発・拡販に努めてまいります。また、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを一步一步着実に進めております。一例として、ユーザーの脱プラスチック化のニーズに対応するため、プラスチックフィルムから紙を主原料とする包材への切替を請け負うなど、環境配慮型製品の展開を進めておりますが、同時にリサイクルが容易なモノマテリアル化の推進など、循環型社会の形成に寄与する製品開発にも継続して取り組んでまいります。

産業資材部門につきましては、引き続き厳しい環境にあります。収益改善に向けての施策として、シノムラ化学工業株式会社子会社化によるシナジー効果の最大化を図るべく、製造部門の統合と設備の統廃合に取り組んでおり、確実に収益性は改善されております。

一方、これまで当部門の製品価格は、近年の材料費及び電力・燃料費の値上がりを転嫁し切れておらず、このことが当部門の製品全体の採算悪化を招いておりました。これにより前述の収益改善効果が打ち消され、当部門は長期にわたり不採算状態が続いております。

この課題を解決するため、今後は当部門の事業存続を懸けて価格転嫁を断行し、前述した合理化の推進と併せ、当部門の黒字化達成に向けて取り組んでまいります。

機能性材料部門につきましては、昨年11月に株式会社レゾナックより表面保護用フィルム事業を譲り受け、現在、事業統合に向けて策定した計画に従い、当譲受事業の製品仕様・製造再現性の確保、当社設備への製造移管、ユーザーでのスペックイン活動などに注力しております。当面の間、コストの発生が先行する状況にありますが、第117期中に当譲受事業を軌道に乗せ、その後、当部門の収益に貢献しうる事業に成長するよう最大限の努力を続けてまいります。

当グループでは「サステナビリティ推進委員会」の方針と計画の下、関係部門が精力的に活動しております。環境面においては二酸化炭素排出量（燃料・電気）を数字で具体的に把握し、社内目標達成の進捗状況を毎月報告会にて確認しております。また報告会におきましては、脱炭素化推進のための積極的な意見や提案が出席者によりなされており、全員が自発的に発言をする、非常に環境に対する意識の高い活動となっております。

第115期に導入いたしました太陽光パネル、CO<sub>2</sub>フリー電気に加え、第116期はサーマルリサイクルにより生じる熱エネルギーを有効活用する仕組みを取り入れました。今後も引き続き工場の省電力、省エネルギーに効果のある設備の導入を進める予定です。また、「資源循環」及び「循環経済」の取り組みをもう一段引き上げるため、循環型リサイクルに寄与する製品開発についても注力してまいります。

サステナビリティ推進の中核的要素であります人的資本に関しましても、改善のための施策を進めております。その一環として、既に人事制度改革に着手しましたが、一部は今春よりスタートしております。今後は従業員のエンゲージメントの向上と働きがいのある職場づくりをより強く意識した活動を行ってまいります。

なお、サステナビリティに関する上記の活動と、環境にプラスの影響を及ぼしうる環境配慮型製品の開発・拡販を両立させつつ、収益性向上を果たすことが、当社グループの企業価値向上につながるものと考えております。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2025年6月

### 決算 ハイライト

売上高  
**294億30**百万円  
(前年同期比 6.9%増)

営業損失  
**34**百万円  
(―)

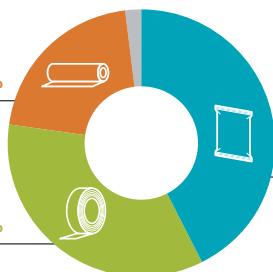
経常利益  
**88**百万円  
(前年同期比 150.1%増)

親会社株主に帰属する当期純利益  
**2億37**百万円  
(前年同期比 31.9%減)

■ 部門別売上高構成比率

機能性材料 20.9%

産業資材 34.6%



軽包装 42.7%

■ 部門別売上高

売上高 294億30百万円

軽包装 125億59百万円

産業資材 101億69百万円

機能性材料 61億41百万円

軽包装



事業内容

食品、医薬品、医療器具、日用品、電子部品、精密機器等の包装材料の製造・販売を行っています。市場ニーズを的確にとらえ、内容物に最も適したパッケージを供給するとともに、自然環境に優しい包材の開発にも取り組んでいます。

当期の概況

食品用包材は、上期において電子レンジ対応食品包材「レンジDo!」の受注が好調に推移していたものの、下期に入り食料品価格値上げの影響を受けた需要減少から受注が減少し通期では前年同期並みの受注数量で推移。日用品等の包材は、耐内容物包材「プラピカ」の受注が好調に推移したことから販売数量は微増。医薬品・医療用包材は前年同期並みの受注数量で推移。

■ 売上高の推移 (単位:百万円)



産業資材



事業内容

粘着テープ・ラベル等の基材、剥離紙の製造・販売を行っています。近年は、粘着テープやラベルの用途が多様化・高度化しており、こうした要求に応え、長年にわたり培ってきたラミネート技術や離型剤塗工技術を駆使し、新製品開発を進めています。

当期の概況

紙・布へのラミネート製品は、輸入品のOPPテープの価格上昇や脱炭素の流れを受けてクラフトテープ基材用途向けの受注が増加。一方で布テープ基材用途向けは海外からの安価品流入により受注が減少。剥離紙は、建材用途向け及び家電用途向け製品の受注が低調だったものの、自動車関連用途向け製品の受注が好調に推移したことから販売数量は前年同期比微増。

■ 売上高の推移 (単位:百万円)



機能性材料



事業内容

粘着塗工タイプ、2層押しタイプ、精密塗工タイプに分類される各種表面保護フィルムの製造・販売を行っています。フラットパネルディスプレイ向け偏光板や輝度向上フィルム等の光学用途から建材用途に至るまで、様々な部材を加工時・輸送時・保管時のキズ・ホコリ・汚染から保護します。

当期の概況

その他の粘着加工品は新たに獲得したフォルダブルスマートフォン用途向けやモバイル用途向け保護フィルムの受注が好調に推移したことから増収。オレフィン系粘着加工品は前年同期並みで推移。

■ 売上高の推移 (単位:百万円)



※第113期より「収益認識に関する会計基準」が適用されております。

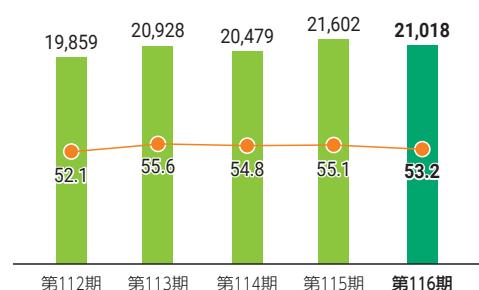
## 総資産

(単位:百万円)



## 純資産 / 自己資本比率

(単位:百万円/%)



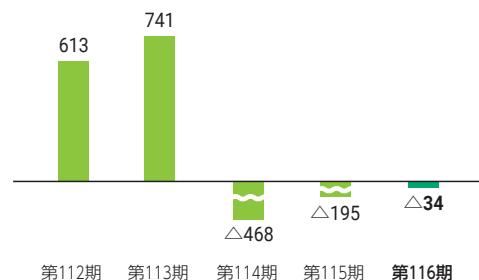
## 売上高

(単位:百万円)



## 営業利益

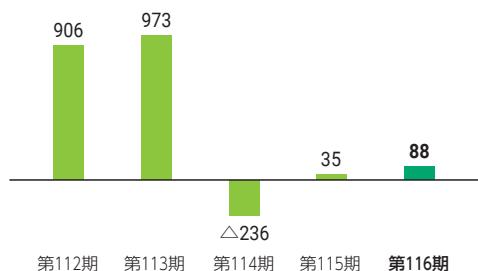
(単位:百万円)



※第113期より「収益認識に関する会計基準」が適用されております。

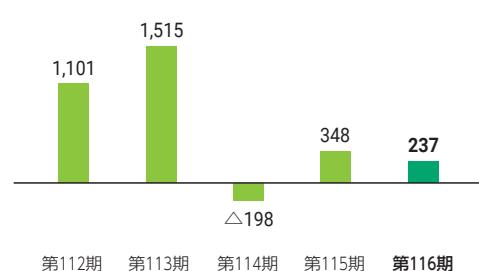
## 経常利益

(単位:百万円)



## 親会社株主に帰属する当期純利益

(単位:百万円)



財務ハイライトの詳細は決算短信をご覧ください。

<https://www.sun-a-kaken.co.jp/assets/pdf/ir/library/result/202505tanshin1.pdf>



## 特集 [第3回] サンエー化研の技術

### 多層押出技術

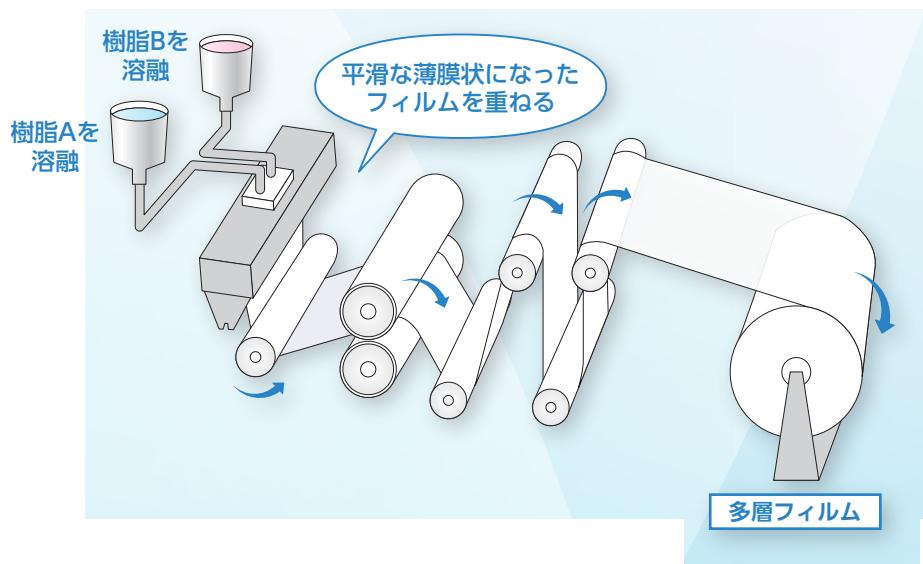
#### ■ 多層押出技術とは

ポリエチレンや接着性樹脂など2種類以上の性質の異なる熱可塑性樹脂を溶かしたものを押し出して1枚のフィルムを形成し、基材としての機能以外に接着性やヒートシール性\*などの機能や価値を付与する技術となります。

当社の製品としては、食品包装材、医療・医薬品包装材、精密機器包装材や表面保護フィルムとなります。

\*ヒートシール性：フィルム同士を熱で融着することができる性質

#### ■ 多層押出加工例の概略



#### 多層押出技術の活用例

PAC



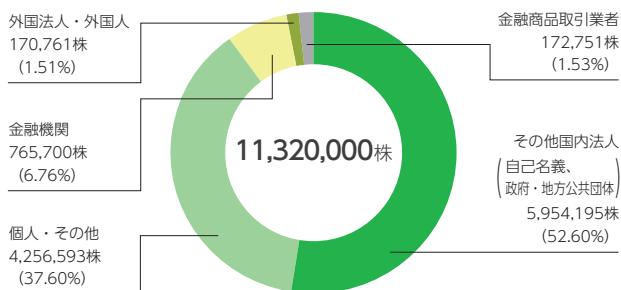
貼り合わせ表面がフラットなものに適しており、粘着剤を使用していないため糊残りがありません。

製造工程で有機溶剤を使用していないため環境にも優しく、光学部材等の工程用や搬送出荷用として使用が可能です。

株式の状況

発行可能株式総数	45,000,000株
発行済株式の総数	11,320,000株
株主数	2,999名

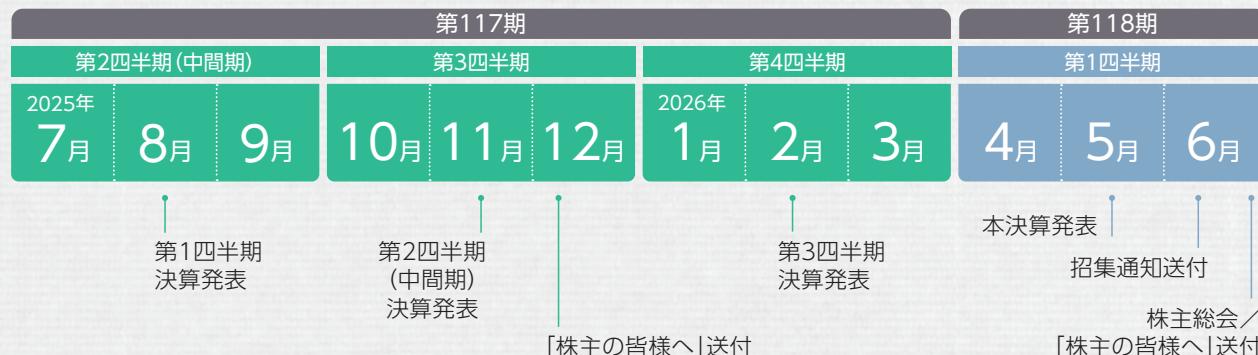
所有者別株式分布状況



会社概要

商号	株式会社サンエー化研
本社所在地	東京都中央区日本橋本町1-7-4
事業所	関西支店、名古屋営業所、台北営業所 静岡工場、袋井工場、掛川工場、掛川工場WEST、 奈良工場 R&Dセンター
設立	1942年9月
資本金	21億76百万円
従業員数	453名
主な事業内容	紙、プラスチック、金属箔等を主原材料とする 軽包装材料、剥離紙、粘着テープ基材、表面保護 フィルム等、包装材料関連製品の製造及び販売

IR カレンダー



## 株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
配当金受領株主確定日	3月31日(期末配当) 9月30日(中間配当)
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 TEL 0120-232-711(通話料無料) 郵送先: 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場証券取引所	東証スタンダード市場
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL <a href="https://www.sun-a-kaken.co.jp">https://www.sun-a-kaken.co.jp</a> (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします)

### 株式事務に関するお問い合わせ

- 住所変更、配当金の振込指定、単元未満株式の買取請求等のお申出先について証券会社に口座を開設されている株主様は、当該証券会社にお問い合わせください。  
証券会社に口座がないため特別口座に登録されている株主様は、上記の特別口座の口座管理機関(兼株主名簿管理人)である、三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部にお問い合わせください。
- 払渡期間経過後のお取り扱い  
配当金領収証の裏面に受取方法を指定し、三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部までご郵送いただくか、同銀行全国各支店窓口にてお受け取りください。

## 配当金について

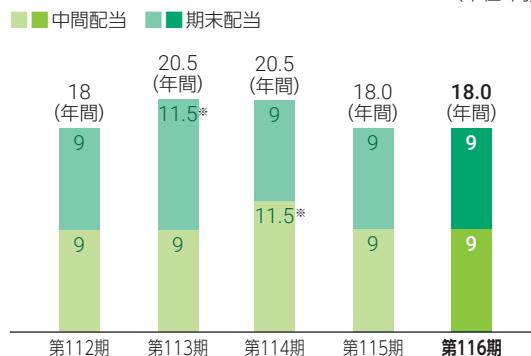
当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の最重要課題の一つとして位置づけており、将来の事業展開と企業体質の強化に備えて必要な内部留保を確保しつつ、安定的かつ継続的な配当を行うことを基本方針としています。

この方針の下、第116期(2025年3月期)の期末配当金につきましては、1株当たり9円とすることといたしました。

これにより、第116期の年間配当金は、中間配当金9円と合わせて、1株当たり18円となりました。

### 1株当たり配当金

(単位:円)



※創立80周年の記念配当2.5円を含む。

ホームページ  
のご案内



当社の詳細なIR情報は、ホームページをご覧ください。

URL▶ <https://www.sun-a-kaken.co.jp>

## 株式会社 サンエー化研

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町1-7-4  
TEL 03-3241-5701 FAX 03-3241-5719



見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォントを  
採用しています。